人間科学研究科の教学理念、人材育成目的と３ポリシー

●博士課程前期課程

１．教学理念

人間科学研究科は、総合的な心理学をもとにして、人間それ自身の研究を拓き、対人援助・人間理解にかかわる関連分野の諸科学や多様に取り組まれている実践を包括する、広い意味での人間科学の創造をめざす。細分化している専門の深まりを、社会のなかの人間科学としての広がりのなかで自らの研究主題を構築しなおす研究力を養い、社会のなかに活きる心理学・人間科学の創造をとおして、学術と社会の発展に貢献する人間の育成を目指す。アカデミック人間科学とプロフェッショナル人間科学の往還をもとにした連携と統合を目標とする。

２．養成する人材像（人材育成目的）

人間科学研究科は、心理学とその隣接領域の科学的、総合的知識にもとづいて包括的に人間を理解し、理論と実践を相互還流させる高度な技能と対応力を身につけることで、人々のニーズや社会的要請を適切に捉えて、学術と社会の発展に貢献することができる人材を育成することを目的とする。

人間科学研究科人間科学専攻博士課程前期課程に心理学領域、臨床心理学領域、実践人間科学領域の 3 領域を置き、心と行動の理論的、実証的研究および臨床と支援の実践的研究を行う。本課程は、これらの人間科学研究を通じて、国際的、かつ、総合的視野を持って学術の発展と社会の進歩、安寧に貢献できる人材の育成を目的とする。

３．学位授与ポリシー（ディプロマ・ポリシー）

人間科学研究科では、人材育成目標に向けて、修了時において院生が身に付けるべき能力（教育目標）を、授与する学位ごとに定めている。研究科が規定する修了要件（所定の単位 30 単位と修士論文の審査に合格すること）を満たすことでその達成とみなし、教育目標（心理学）を達成したものには、修士（心理学）を、教育目標（人間科学）を達成したものには修士（人間科学）を授与する。そのために、修了時点において学生が身につけるべき能力（教育目標）として、心理学および人間科学の学位に即して、それぞれ下記の三点を定める。

①修士（心理学）

・心理学、臨床心理学の専門的知識をもとにして人間についての諸問題を科学的・総合的、歴史的にとらえることができる（知識・理解）

・心理学、臨床心理学についての専門的技能と対応力を習得し、理論と実践を相互還流させてとらえることができる（技能・表現）

・人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえ、世界的な視野をもち新しい心理学、臨床心理学の創造に高いこころざしをもって挑戦することができる（価値・姿勢）

②修士（人間科学）
・人間科学の専門的知識をもとにして人間についての諸問題を科学的・総合的、歴史的にとらえることができる（知識・理解）
・人間科学についての専門的技能と対応力を習得し、理論と実践を相互還流させてとらえることができる（技能・表現）
・人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえ、世界的な視野をもち新しい人間科学の創造に高いこころざしをもって挑戦することができる（価値・姿勢）

修士学位論文評価基準

研究科にて定めた学位申請基準を満たして提出された学位論文に対して、下記の評価軸に基づき、教育目標が達成されているかを評価する。
・研究内容が新しい知見を提供している。
・当該専攻分野において専門的な価値を有する。
・論文の結論が根拠をもって裏づけられている。
・論旨が明確であり，論理的に展開されている。
・先行研究および資料が適切に取り扱われている。

４．教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

人間科学研究科では、人材育成目的（養成する人材像）と研究科の特色を具体化して、以下のように教育課程を編成する。

博士課程前期課程の教育課程編成

本研究科博士課程前期課程の科目は、「共通科目」「専門科目」に大区分する。

「専門科目」には中区分として「演習」「公認心理師」「領域専門」を置き、「領域専門」の配下に小区分として「心理学領域」、「臨床心理学領域」、「実践人間科学領域」を設ける。前期課程は、心理学、臨床心理学、実践人間科学の各分野において、理論的・基礎的な対象の理解と、応用的・実践的な知識の修得・活用が可能な課程として編成する。アカデミック人間科学とプロフェッショナル人間科学の架橋、往還、連携と統合が可能なように諸領域を構成し、領域固有の専門性と領域共通の人間科学として総合性を得ることができる課程として編成する。加えて前期課程では、3 領域にわたって厚生労働省の認定する公認心理師の受験資格認定プログラムに対応した科目を設定しており、所定の要件を満たし、課程を修了すると、公認心理師資格試験を受験することができる。

このために、演習系科目、実習系科目、講義系科目をおき、自らの研究にかかわる知識、

方法・理論、社会性が統合的に把握できるような教育課程として編成し、授与する学位ごとに編成方針を定める。

①修士（心理学）

心理学領域、および臨床心理学領域では、その教育目標を達成することで修士（心理学）の学位を授与する。心理学領域では、人間の心と行動に関する科学的研究の成果を踏まえ、独創的な先端的探究を進めることができるようなカリキュラムとする。伝統的心理学が蓄積してきた知的財産に基づく洞察の深化と新しい心理学がもたらす批判的・複合的視点の獲得、さらに、近接領域を取り込んだ心理学の拡張を目指す。臨床心理学領域では、（財）日本臨床心理士資格認定協会の定めるカリキュラムに対応した科目を設置し、所定の要件を満たしこの領域を修了すると、直近の臨床心理士資格試験を受験することができる。付属の心理・教育相談センターと学外での実習施設（医療分野、教育分野、福祉分野）で実習を行う。

②修士（人間科学）

実践人間科学領域では、その教育目標を達成することで修士（人間科学）の学位を授与する。多様性（ダイバーシティ）を選択できる社会づくり、ライフコース形成とケア、社会的イノベーションという相互に関連し合う観点をもとにした、PBL 探究型履修モデルを基本としたカリキュラムである。そのため、関連する講義科目とともに、学外実習を必修科目として履修し、それらの活動の個別の状況、現場に埋め込まれている課題を認識し、協働で実践知として吟味するカンファレンス形式の講義により、理論と実践の架橋と往還を実践していく。

５．入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

人間科学研究科は、心理学、臨床心理学、実践人間科学などに関する教育分野を創造し、こうした分野の研究者や高度専門職を担う人材の養成を通して、関連分野の新しい研究を推進することを目指す。本研究科は、このような研究科の理念に賛同し、博士課程前期課程及び同後期課程を通じて、高度な専門性の獲得をめざす下記のような条件を満たす人材を求める。

・心理学の基礎的分野、応用的分野、対人援助や人間理解に関する分野に関する基礎的知識を有し、こころ、行動、人間について総合的な視野をもつ者
・人間にかかわる問題を主体的に発見し、それを解決するために、科学的・客観的な方法を用いることに意欲と関心を持つ者
・人間にかかわる問題の解決のために、理論と実践を相互還流させてとらえる視点を有し、他者を尊重し、他者と協働する姿勢を有する者
・人間科学の国際的展開に積極的に参与していこうとする者

●博士課程後期課程

１．教学理念

人間科学研究科は、総合的な心理学をもとにして、人間それ自身の研究を拓き、対人援助・人間理解にかかわる関連分野の諸科学や多様に取り組まれている実践を包括する、広い意味での人間科学の創造をめざす。細分化している専門の深まりを、社会のなかの人間科学としての広がりのなかで自らの研究主題を構築しなおす研究力を養い、社会のなかに活きる心理学・人間科学の創造をとおして、学術と社会の発展に貢献する人間の育成を目指す。アカデミック人間科学とプロフェッショナル人間科学の往還をもとにした連携と統合を目標とする。

２．養成する人材像（人材育成目的）

人間科学研究科人間科学専攻博士課程後期課程において、高度に専門的な研究能力と技能にもとづいて、心と行動に関する人類の知を拡大し、総合的、倫理的な視点から複雑な社会の問題の解決に貢献することができる人材の育成を目的とする。

３．学位授与ポリシー（ディプロマ・ポリシー）

人間科学研究科では、人材育成目標に向けて、修了時において院生が身に付けるべき能力（教育目標）を、授与する学位ごとに定めています。研究科が規定する修了要件（所定の単位 7 単位と博士学位論文の審査に合格すること）を満たすことでその達成とみなし、教育目標（心理学）を達成したものには、博士（心理学）を、教育目標（人間科学）を達成したものには博士（人間科学）を授与します。そのために、修了時点において学生が身につけるべき能力（教育目標）として、心理学および人間科学の学位に即して、それぞれ下記の四点を定める。

①博士（心理学）

・心理学、臨床心理学に関する専門的知識をもとにして、批判的・科学的・総合的かつ世界的な視野において人間科学の諸課題をとらえることができる（知識・理解）

・心理学、臨床心理学についての高度な専門的技能と対応力・実践力を習得し、人間科学の理論と実践を相互還流させてとらえることができる（技能・表現）

・新しい心理学、臨床心理学の創造に高いこころざしをもって挑戦する意欲を持ち、グローバルな視点から人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえることができる（価値・姿勢）

・理論的にも実践的にも先進的な研究を行える問題意識と課題遂行能力を持ち、心理学、臨床心理学における今日的課題を敏感かつ的確に捉えることができる（独創性・課題遂行能力）

②博士（人間科学）

・人間科学に関する専門的知識をもとにして、批判的・科学的・総合的かつ世界的な視野において人間科学の諸課題をとらえることができる（知識・理解）
・人間科学についての高度な専門的技能と対応力・実践力を習得し、人間科学の理論と実践を相互還流させてとらえることができる（技能・表現）
・新しい人間科学の創造に高いこころざしをもって挑戦する意欲を持ち、グローバルな視点から人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえることができる（価値・姿勢）
・理論的にも実践的にも先進的な研究を行える問題意識と課題遂行能力を持ち、人間科学における今日的課題を敏感かつ的確に捉えることができる（独創性・課題遂行能力）

論文審査基準

研究科にて定めた学位申請基準を満たして提出された学位論文に対して、下記の評価軸に基づき、教育目標が達成されているかを評価する。

・研究内容が新しい知見を提供し独創性を有している
・当該専攻分野において専門的かつ学術的な価値を有する
・論文の結論が理論的に根拠づけられている
・論旨が一貫して明確であり，論理的に展開されている
・先行研究および資料が適切かつ厳密に取り扱われている

４．教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

博士課程後期課程は、アカデミック人間科学とプロフェッショナル人間科学の架橋、往還、連携と統合が可能なように人間科学プロジェクト演習ならびに共通科目群を開設し、授与する学位ごとに編成方針を定める。

①博士（心理学）

心理学、臨床心理学の分野において、理論的・基礎的な対象の理解と、応用的・実践的な知識の活用が可能な人間科学をめざす課程として編成する。

②博士（人間科学）

人間科学の分野において、理論的・基礎的な対象の理解と、応用的・実践的な知識の活用が可能な人間科学をめざす課程として編成する。

５．入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

人間科学（心理学、臨床心理学、実践人間科学等の諸分野）における博士課程前期課程レベル（修士課程レベル）の知識・技能を基盤に、自らの問題意識について、さらに理論的にも実践的にも独創的かつ先進的な研究を行う意欲がある人物を求める。本研究科は、この

ような研究科の理念に賛同し、博士課程前期課程及び同後期課程を通じて、高度な専門性の獲得をめざす下記のような条件を満たす人材を求める。

・人間科学（心理学、臨床心理学、実践人間科学）の専門的知識をもとにして人間についての諸問題を科学的・総合的にとらえることができる者（知識・理解）
・人間科学（心理学、臨床心理学、実践人間科学）についての専門的技能と対応力を習得し、理論と実践を相互還流させてとらえることができる者（技能・表現）
・人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえ、新しい人間科学（心理学、臨床心理学、実践人間科学）の創造に高いこころざしをもって挑戦することができる者（価値・姿勢）